

# 中国イスラーム哲学の眺望



筑波大学 名誉教授  
**堀池 信夫**

## 研究の背景

中国に、独特なイスラーム哲学が存在していることは昭和の初期ごろから知られていました。ただそれは、こんな珍しい資料があるんだ、という関心の方が強く、思想内容に正面から向きあつての研究はなされませんでした。二十世紀の終わりごろから、それが中国とイスラームの両方を視野にいれる特別な知的世界であるということに気づかれ、本格的な研究がはじまりました。といつてもきわめて特殊な領域ですから、研究者数は現在のところ、せいぜい十人内外というところだろうと思います。

## 研究の成果

そうした日本国内ではほとんど知られていない状況下、中国にはじめてムスリムが到達した唐代以来、中国イスラーム哲学が形成される明代までのムスリム知識人の知的歴史をしらべ、そしてさらに最初期の中国イスラーム哲学者である王岱輿の哲学について(おもに抽象的・形而上学的側面を中心に)研究を進めた結果、王岱輿哲学の特質は、中国伝統の形而上学的思惟をイスラーム神秘主義哲学のもとに統一・超越しようとする契機をもっており、そこには明らかに従来の中国思想を越えた、中国思想にとっては新しい認識が

存在していました。しかし、より大きくみると、それは中国伝統の思惟様式をもちいてその思索をおこなっているということが分かってきました。つまり枠組みを広くとると、中国伝統の思惟様式がいかに根強く東アジア地域における思索には影響をあたえるのかが、みえてきたのです(図1)。

## 今後の展望

私自身はすでに老齢に達していますから、今後この研究を新たな段階に引き上げてゆくのは難しいのですが、ただ、この研究領域にたずさわっている研究者の平均年齢はそれほど高くないので、今後、従来考えられもしなかった新しい知見が現れてくるのは確かだと思います。とくに劉智という中国イスラーム哲学史上最大の学者についての研究が相当進むのは現在の見通し上、確実だと思います。そして、従来の中国思想史にはまったく触れられていなかった中国イスラーム哲学が、今後はすべての中国思想史に關説されることになればよいと願っています。

## 関連する科研費

平成20-22年度 基盤研究(B)「中国イスラーム哲学形成の研究」



図1 王岱輿墓碑(北京市西城区三里河清真寺)



図2 北京市のモスク(北京市牛街清真寺)



図3 広州市のモスクのミナレット(広州市光塔路懷聖寺)